



学部長ごあいさつ

保健医療学部長 片寄 正樹

秋の気配を感じる季節になって来ました。コロナの影響はまだ続いているところですが4月から対面での講義演習、そして臨床実習を可能として学務が進んでおります。学生には、この対面での学習環境を維持し臨床実習が継続できるよう、感染予防への一層の自覚も促し学生生活を送ることを伝え続けています。部活動などは状況により臨機応変に制限をしながらの状況ではありますが、医療人教育として極めて重要な役割を担う対面での学び、臨床実習が進められていることは、これまでの制限下での学習環境を経て改めてその意義を感じ取っていることと思います。



一方で、先日7月30日に開催しました保護者説明会は、当初対面での開催を予定していましたが感染状況を鑑み急遽オンラインでの開催となりました。来学のご準備をいただきました皆様には誠に申し訳なく思っております。適時迅速な対応判断により感染拡大を予防し対面での学務遂行を最優先として進めていく方針でありますこと、何卒ご理解をいただけますと幸いです。

さて本学は、この11月に10年間にわたる整備を終え新キャンパスが完成致します。学生生活の基盤となる新キャンパスには、新たに講義演習室が整備される講義棟、そして事務局が中心となる管理棟が建設され、すでに整備を終えている保健医療学部棟、保健医療学部リハビリテーション実習棟などとあわせて最新鋭の美しいキャンパスとなっております。また、保健医療学部棟、講義棟、管理棟、基礎医学研究棟、臨床医学研究棟、附属病院の大学ビル群に取り囲まれた中央の空間はこれまで遊歩道として活用されて来ましたが、これも全面的に改装され本学のキャンパスの「広場」として整備されることになりました。充実の新キャンパスで、学生には大いに学び、学生生活を楽しみ、医療人として歩む上での貴重な財産となる学友との親交を深めてほしいと思っています。また、この大学中央に整備される広場の名称は、広く市民に公募することになりました。この冊子が届く頃には公募期間が過ぎているかもしれませんが、公募概要は本学HPで「札幌医科大学新キャンパス『広場』愛称募集」をご覧くださいことができます。道民、市民に親しみを感じていただきつつ、本学学生、教職員、卒業生が集い誇りを感じる環境を整備して来ております。ぜひ皆様に新生札幌医科大学のキャンパスを見ていただく機会を考えていきたいと思っています。

今後も本学での学びをより有意義なものとするよう、本学教職員一同で引き続き教育環境の整備に努めてまいります。保護者の皆様におかれましては、引き続き感染予防にご配慮をいただき、本学へのご支援のほどお願いを申し上げます。

【令和4年度 前期学事 実施報告】 (1~4学年)

(4学年共通)

4月11日～4月13日 「保健医療総論1～4」
4月14日～ 前期講義開始
6月25日 大学記念日

(3年生)

8月8日～8月26日 夏季休業
8月29日～9月9日 前期定期試験(看護)
8月29日～9月16日 " (理学・作業)
9月12日～ 臨地実習(看護)

(1・2年生)

8月8日～8月26日 夏季休業
8月29日～9月16日 前期定期試験

(4年生)

4月18日～ 臨地実習(作業)
5月9日～ 臨地実習(理学)
7月25日～8月5日 夏季休業(作業)
7月15日～7月29日 前期定期試験(看護)
8月8日～9月9日 夏季休業(理学)
8月1日～8月19日 " (看護)
8月22日～ 臨地実習(看護)



2 学年副学生担当教員よりごあいさつ

看護学科（准教授 山本 武志、講師 木島 輝美）



看護学科 2 年生副学生担当教員の山本と木島です。看護学科は副学生担当教員が 1 学年に 2 人ずつ配置されており、学籍番号の前半の学生を山本、後半の学生を木島が担当しています。保護者の皆様におかれましては、日頃より本学の教育についてご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。



2 年生は入学前からコロナ禍が始まっており、大学の遠隔講義や感染対策のもとでの生活にあまり戸惑わずに対応できている、という印象があります。一方で、あるべき大学生活を知らずにこの 2 年間を過ごしていることをとても不憫に思います。特に、附属病院を有する医科大学という特殊な環境により、他大学よりもかなり厳しい学習・生活上の制限が課されています。刻々と変わるコロナの流行状況について述べるのは難しいのですが、2022 年 9 月現在の状況としては「第 7 波」がピークを越えたとされ、落ち着いた状況を迎えています。この状況が続けば、活動制限が撤廃される日が来るのではないかと期待しています。「辛抱」という言葉はもう聞き飽きたように思いますが、その日がくるまでは、粛々となすべき対策を進めるしかありません。保護者の皆様におかれましてもご健康に留意いただき、引き続き学生へのご支援をよろしく願います。例年行われている保護者説明会も、ここところは遠隔で行われています。保護者の皆様にも新しいキャンパスに足を運んでいただける日が来ることを祈っております。

理学療法学科（准教授 山田 崇史）



2021 年（令和 3 年）度に本学理学療法学科に入学された 29 期生の皆さんの担当教員を務めます山田崇史と申します。補佐の根木亨先生ならびに学務課と連携し、主に教学に関するサポートに当たっております。現在 2 年生になる彼らは、1 年次の一般教育科目および基礎医学系科目の修学を経て、理学療法の専門性の基礎となる教育科目を受講し始めたところです。学部全体の教育内容に関する情報は、本学部 HP> 学部案内> カリキュラムに掲載されている各学科のカリキュラムマップをご参照ください。なお、本カリキュラムは、本学部の教育理念である「北海道の保健・医療・福祉の充実、ならびに学術の発展に寄与できる人材を育成する」を念頭に置いて構成されています。

昨年度までは、COVID-19 の感染が拡大するたびに、授業を遠隔で実施せざるを得ない状況が発生しました。一方、令和 4 年度に入ってから、対面での授業がほぼ実施できています。発達したデジタル技術の恩恵を受け、遠隔授業でも一定の学習効果を得ることができていますが、将来、理学療法士を目指す学生の皆さんにとって大切となるコミュニケーション能力を、遠隔授業で醸成することはやはり困難です。特に、カリキュラム上、2 年生後期からは、演習や実習科目の割合が増えてきます。今後も、本学部に設置されている感染対策作業部会を中心に、教職員および学生が一丸となってできる限りの対策を講じ、学習効果を最大化できる授業環境の実現に努めて参ります。保護者の皆さまにおかれましては、ご家族の感染対策にご留意いただくとともに、本学の教育活動に対し引き続きご理解とご支援をお願いできれば幸いです。

作業療法学科（教授 太田 久晶）



日頃より本学作業療法学科の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。現 2 年生の入学以来、副学担として私は、約 1 年半、学生の様子を見てきました。学生たちは、入学前からウィズコロナの生活を強いられ、2 年生となった現在でも、講義の際の座席指定や、食事の際の座席指定および黙食の徹底、さらに部活動の停止など、各学生が、思い描いていた“大学生活”と大きく異なるものとなっているのではないかと思います。そのため、年数回、副学担の横山和樹講師とともに、学生との個人面談を通して、生活や学習上の困りごと等を把握し、状況に応じて助言を行っております。しかしながら、十分把握しきれていない場合もあるかもしれませんので、機会を見て、学生の様子についてご確認いただければと思います。また、必要に応じて情報共有をさせていただく場合もありますので、何卒宜しくお願い致します。

今年度は、7 月以降に新型コロナウイルス感染「第 7 波」という大きな感染の波がありましたが、感染対策を講じながら、講義、演習を進め、無事に前期の定期試験まで終えることができました。後期も感染対策を継続して、講義、演習の実施を計画しております。2 年生の後期では、講義の時間数が多いのみならず、作業療法に関連する演習科目が 2 科目開講されます。そして、12 月中旬から翌年 2 月上旬までに、計 5 回の臨床実習が予定されております。学生の皆さんは、今まで以上に忙しくなりますが、自分自身で体調管理を徹底の上、勉学に励んでいただきたく思います。また、保護者の皆様におかれましては、ご健康にご留意いただき、引き続き当学科の教育にご支援いただきますようお願い申し上げます。

行事紹介

令和4年度保健医療学部「保護者説明会」

教務委員長 小塚 直樹

7月30日土曜日の午後、3時間の時間枠で令和4年度保健医療学部保護者説明会を開催しました。当初、対面形式とWEB形式のハイブリッド形式での開催を予定し準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮し、開催日の2日前に急遽オンライン開催へと変更しております。この変更にもかかわらず、53名（看護学科：25名、理学療法学科：19名、作業療法学科：9名）の保護者のご参加をいただきました。ご多忙中、ご参加いただきましたことに、この場をお借りして御礼申し上げます。



(小塚教務委員長)

今回の内容は、例年通り「学部の全体説明会」、「各学科の説明会」、「個別相談会」の三部構成としました。全体説明会では片寄学部長のあいさつに引き続き、私より「遠隔授業の有効性と課題」をテーマに、令和2年度後期から3年度前期までに実施された遠隔授業の内容に関する学生と教員を対象とした調査の結果をお伝えしました。本学部で実施している遠隔授業は、講義については学生/教員共に良好な結果が得られましたが、演習、実習、実験についてはその限界が示され、今後の課題となることをお伝えしております。

各学科の説明会では、三学科（看護、理学療法、作業療法）がそれぞれのグループに分かれ、学科毎の教育方針や学科の特徴をお伝えしました。特にコロナ禍でのここ数年の進路に関し、三学科共に大きな変化がなく、安定していることを説明させていただきました。その後、希望者に対する個別相談会では、事前に伺っていた「学生生活」、「成績」、「進路」に関するご質問に各学科の担当教員がお答えしました。

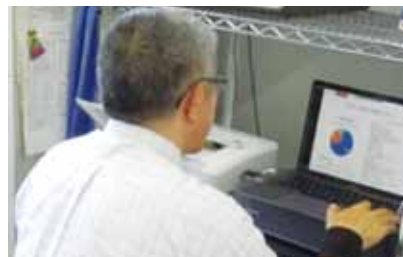
終了後に実施したアンケートにおいては39名の方にご回答いただき（回収率73.68%）、概ね「満足ができた」旨の好評をいただいております。お寄せいただいた自由意見の中には、今後の企画へのご希望などの建設的なご意見のほか、多くのお礼を含む感想をお寄せいただきました。今回はWEBで行うこととなり、昨年度ご希望いただいていた「大学学部の施設を見学したい」とのご意見にお応えできませんでしたが、来年度はハイブリッド形式での開催をしたいところです。今回このイベントを企画運営した教員/事務組織では、これらの内容を十分に吟味し、改善をしながら次年度の開催へと繋げたいと考えております。皆様におかれましては、次年度に向け引き続きご理解いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



(看護学科説明：城丸学科長)



(理学療法学科説明：渡邊学科長)



(作業療法学科説明：仙石学科長)

中学生の見学学習を受け入れました

9月8日(木)に、保健医療学部看護学科において中学生の大学見学(体験)学習を受け入れました。見学受入れは、COVID-19の影響で令和元年を最後に休止していましたが約3年振りの実施となりました。

この日は、いずれも将来の保健医療職や看護職を目指している稚内市立稚内南中学校3年生の5名と寿都町立寿都中学校2年生の2名が本学を訪れました。

まず、附属病院へ向かい、道内各地から救急患者が搬送される屋上のヘリポートを見学しました。中学生の皆さんは、初めて見る屋上からの景色に圧倒されていましたが、ドクターヘリの出勤時の様子など熱心に聞き入っていました。

次に、看護学科へ移動し「保育器内の赤ちゃんのお世話」や「輸液(点滴滴下)・触診体験」といった実際に授業で行っている演習を体験しました。未熟児として産まれてきた赤ちゃんのお世話を想定し、実際の赤ちゃんと同程度の大きさ、重さのモデル人形を保育器内であやす場面では、恐る恐る接しながらも優しく語り掛ける中学生の姿が印象的でした。また、輸液・触診体験では、医薬品の種類及び患者に応じて対応する輸液スピード調整やモデルを用いた触診を行い、初めて触れるものに緊張しながらも普段できない経験に看護職への関心をさらに高めていました。

最後に「今、医療現場で抱える問題は何か」「医療現場で働くために中学生の私たちが出来ることは何か？」等、中学生から活発に出される質問に対して、本学の概要や特色、教員自身の経験などを踏まえお答えしました。中学生の皆さんは、講義や質疑応答、施設見学を通して保健医療を大学で学ぶことに強く関心を抱いた様子でした。



教員紹介（医療人育成センター：哲学・倫理学 准教授 船木 祝）



私が所属している医療人育成センター教養教育研究部門は、主に1学年の教養科目、一般科目、語学教育を担当しています。専門教育につなげるための基本的な知識・技術の習得をめざしております。保健・医療・福祉に携わる者には、患者の視点に立つこと、自分の経験しないことへの想像力、人間のさまざまな価値観、生命観への理解力、身体的症状だけではなく、地域や生活に対する理解力が求められております。人文社会的知見に裏づけられた、人間と社会についての深い理解力、他者の痛みへの感受性、患者の秘密を守ることが求められております。また、医療・福祉に実際に役立つための、自然科学的知識が求められております。さらに、専門的情報や技術の提供だけではなく、国籍を問わず、患者と同じ目線で、共通の話題をつくることのできるコミュニケーション能力が求められております。

「倫理と哲学」の講義では、生殖補助医療や終末期医療の国際的情勢を踏まえ、医療記事・ビデオ教材などを用い、倫理的問題点を指摘し、自分の意見を述べられることを到達目標としております。生命倫理の歴史、人工妊娠中絶、着床前診断、尊厳死、緩和ケアなどを講義項目として、いのちの誕生といのちの終末における倫理的問題点について、学生とともに考える機会を重視しております。新型コロナウイルス感染症拡大下においては制限されましたが、感染が収束しております時期には、少人数の対面でのグループディスカッションを通じて、多様な考えに触れる機会を大切にしたいと思っております。

患者・家族の方たちは、治療方針の決定等の場面で、さまざまな葛藤に苦しめます。ベッドサイドやリハビリの現場で、その方たちの多様な価値観に寄りそう医療人となることが今日求められています。哲学は市民の立場に立って、多様な人生観、価値観、生命観を研究してきた学問です。医療安全、グリーフケアについての哲学的考え方を学びます。また、現代の臨床現場の基礎となる哲学的考え方を、ベーコン、カント、ベンサム、ミル、ブーバー、コールバーグ、ギリガンなどの近現代の思想家から学んでおります。また、新型コロナウイルス感染症収束期には、グループディスカッションを通じて、多様な考えに触れる機会を重視したく思っております。

国内外の多様な考え方に触れることで、当事者に寄り添える医療人の育成をめざしております。こうした教養教育の機会を学生の皆様が得られる意義について、ご理解を賜れば幸いに存じます。



【令和4年度 後期学事予定】（1～4学年）

（4学年共通）

9月26日～ 後期講義開始
 10月11日～ "（3年生・作業）
 12月 2日 文化芸術祭
 3月17日 卒業式

（3年生）

9月12日～ 2月24日 臨地実習（看護）
 9月26日～10月 7日 臨床実習（作業）
 12月19日～ 1月 3日 冬季休業
 1月23日～ 1月27日 後期定期試験（理学）
 1月30日～ 2月24日 臨床実習（理学）
 2月15日～ 3月 3日 後期定期試験（作業）

（1・2年生）

12月 ～ 臨床実習（2年生・理学）
 12月19日～1月 3日 冬季休業
 1月 ～ 臨床実習（2年生・作業）
 1月23日～1月27日 臨床実習（1年生）
 1月30日～2月10日 臨地実習（2年生・看護）
 2月15日～3月 3日 後期定期試験（1・2年生）

（4年生）

9月26日～11月 4日 臨地実習（看護）
 12月19日～ 1月 3日 冬季休業